

2022年度第3回日本学連臨時幹事会議事録

【日程】2022年8月16日(火) 20:00 ~ 23:00

【場所】Zoomにてオンライン開催

【議事録作成者】鈴木璃土(筑波大学,責任者)、鎌倉京平(筑波大学)、祖父江有祐(筑波大学)

【目次】

1.ユニバー費用について	3
2.インカレの枠配分方法について	4
3.ユニバーの宣伝	10

2022年度第3回日本学連臨時幹事会議事録

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
谷野 文史	理事	筑波大学卒
浴本 悠貴	幹事長	神戸大学
坂巻 朱里	副幹事長	十文字学園女子大学
荒木 孝大	事務局員	広島大学
鈴木 璃土	広報部長	筑波大学
鎌倉 京平	広報部員	筑波大学
宮川 葵衣	普及部員	名古屋大学
鷺津 加子	渉外部長	東北大学
衣笠 匠斗	会計監査	東京大学
安田 杏耀	北東学連幹事長	福島大学
市川 竣介	関東学連幹事長	筑波大学
島田 智也	東海学連幹事長	名古屋大学
松崎 莉子	中九四学連幹事長	広島大学
谷川 友太	技術委員	名古屋大学卒

(注)議論の本筋に関係のない会話は適宜削除している。

1.ユニバー費用について

谷川:ユニバーの費用として、事前に予算30万円くらいとお願いしていて、オフィシャルにもそのようにお願いしていた。しかし、オフィシャルさんから出てきた予算はそれを大幅に上回るものであった。ただ、選手が負担する金額については、一部は自己負担になるのは致し方ないだろう。オフィシャルの方はほぼボランティアであるので、そちらの負担はできるだけ予算から出していただきたい。オフィシャルの方としては、海外に行っている選手たちの負担を少しでも減らしたいということで、予算の多くは選手負担分の金額が大きい。技術委員会としても、選手の負担を減らしたいという思いがあるので、増額していただけるのが一番ありがたい。

浴本:オフィシャルさんには30万円に収まるように再考していただいている状態か。

谷川:連絡はしたが、現在大会期間中なので返事はまだである。

衣笠:例年30万であるが、今年はそれより多くかかるとのことで、その理由をお聞きしたい。

谷川:絶対に必要というわけではないが、なるべく選手の負担を減らしたいというオフィシャルの思いから多めの金額が申請されている。

浴本:先に会計で予算を組んでいる以上、あまり増額するのは良くないと思うがどうか。

鈴木:会計的に余裕はないのか。

浴本:昨年度大きな赤字を出しており、コロナによってインカレが開催出来ない可能性もあるため、余裕があるとはいえないと思う。

衣笠:単年度の会計としてはなんとかなるが、中長期的に見るとギリギリの状態が続いている。一昨年会計の問題でインカレが開催出来なかったということもあるため、会計に余裕があるとはいえない。

谷川:オフィシャルの方が陽性になった場合、国内に入れず期間でかかるお金はどうするか。

浴本:オフィシャルの方がボランティアでやっていただいている中ではあるが、自腹ということになってしまうと考える。

谷川:オフィシャルの方は大会に出場したくて行っているわけでは無いので、できれば学連に負担して頂きたい。オフィシャルの方には予算の再考を依頼する。

浴本:来年度以降の予算で、オフィシャルの方の負担をへらすために予算を増額することも検討する。

鈴木:幹事会範囲で決裁できる金額の中で、オフィシャルの方が陽性になってしまった場合の負担を軽減出来ないか。

浴本: 20万円未満であれば可能であるが、もしそうなった場合、実際いくら位かかるかは予想がつくか。

谷川: 陽性だった場合どうなるかも含めてよくわからない。

浴本: 帰国出来なかった数日分については、20万円までの範囲ではあるが、ある程度負担するほうがいいのでは無いかと考えている。
オフィシャルさんには、今年は基本的に増額はしないが、オフィシャルの方がコロナ陽性といった事態に限り、幹事会決裁の範囲内で負担する方向で行きたいと考えている。

谷川: もともとが、30万でオフィシャルにかかる費用(参加費、滞在費、渡航費の一部)をまかなうイメージで、余裕があれば選手の補助に回すという感じかなと思っています。

衣笠: オフィシャルの方にかかる費用が30万を越えた場合に決裁するということか。

浴本: それがいいと考えている。

衣笠: 自分としては、全面的に賛成というわけではなく、選手に負担してもらおうという考え方もあると思う。現状、30万円という予算が、オフィシャルの補助と選手の補助まとめてになっている状態である。この場で追加の補助を決裁すると決定するまでは議論が出来ていないし、そもそもコロナ陽性になるかもまだわからないので、今決める必要はないと考える。

浴本: 出席者が少なく、またそのような状況になるかわからない現状決定する必要はなく、オフィシャルの方がコロナ陽性で帰国できなかった場合、決裁できる可能性があるという伝え方でいいのではないかと思う。

浴本: 今回の結論としては、30万円という予算から増額することはできないが、コロナ陽性などで帰国できない状態になった場合、再度日本学連で負担するか議論する。

2. インカレの枠配分方法について

浴本: 前回の振り返りから始める。発端は東北大学から意見書の提出があったことである。当初は全学連を統括している日本学連幹事会で決定することでフラットな結論を出せると考え、救済措置を決定したが、幹事会内のみで決定するのは強引であるとの意見があり、総会の投票にて決定することとした。

今回のゴールとしては、インカレの枠配分をどうするかと、配分方法を今後も変えるか今年度のみのもとするかという2点である。

2021ICMIに、大学の規制によってMEクラスに出場出来なかった東北大学、東京工業大学、慶應義塾大学の3校から了承を得られれば、2021ICMIの個人実績枠を使ってよいと考えている。3大学に確認をとる。

また、インカレを成立させた上で、そのインカレの結果を枠配分に用いないことは過去行われていたということもあり、インカレ選手権クラスの成立基準を設けるより、枠配分の方法を変えることも視野に入れるべきと考えた。

今回は、今年度のみ改正とするか、規約を変更して今後も使う形にするかを決めたい。幹事会で決定した後総会で承認を取るか、案すべてを総会で聞くか、案をしばって総会に上げるかを決めた後、それぞれの案について議論する方向で行きたい。

浴本:では始めに、規約を変更するかどうか、決定ではないが議論の方針を固めたい。自分としては、コロナが広がり始めた2019年以降ずっと枠配分について議論されているので、来年度以降も使うような規約に改正したく考えたい。

鈴木:自分は今年度限りのほうがいいのではないかと考えている。理由としては、技術力を反映できない方法は支持を得られないと考える。技術力を反映できる最も良い方法は直近のインカレの結果を用いることで、これよりいい案が思いつかない。また、コロナの影響でここ数年バタバタしているが、あと数年で元の形でインカレ開催が可能なのでは無いかと考えている。その数年のために規約を改正するのは大変で、またその数年後に戻すのも大変だと思う。場当たりの対応にはなってしまうが、特別な事情があった時に限って議論を行って解決すべきだと考える。

浴本:自分も技術力を反映させるという点では過去のインカレの結果を用いるのがベストと考えており、どちらにせよインカレの結果を何らかの形で用いることになるだろうと思う。数年後にはインカレを元通り開催できるかは不透明であると思う。毎年特例を出すのは規約の意味がなくなってしまうと考える。今の規約が現状とあっていないから特例を作っているのであって、その状況が2019年から続いていることを考えると、規約の改正は必要と考える。

市川:自分の意見としては、今年度限りでも規約改正ではなく、規約と別にガイドラインを作る形がいいのではないかと考える。昨年度の結果を用いることが不適切な場合は出てくると考える。ただ、今回の特例はかなり特殊であるので、それに対しての対応を規約に盛り込むのは微妙と思う。

浴本:今年度限り、規約改正、ガイドライン制定と3つの案が出てきたが、なにか意見はあるか。

鈴木:今回の特例は、直近のインカレに大学の規制を理由に出場が出来なかったため、枠配分で直近のインカレの結果を用いないでほしいというものだったと思うが、これをガイドラインや規約に盛り込むとすると、「直近のインカレに参加できなかった大学があった場合、1つ前のインカレの結果を用いる」というような文章になると思う。

浴本:自分が考えている案としては、「インカレに参加できなかった大学が納得できる形で直近のインカレの結果を用いる」というのがいいと考えている。これであれば、出場できた大学からも反対意見は少ないように感じる。

鈴木:それができるのであればとても良いと思うが、どのような規約にするのか。

坂巻:自分もその案ができればいいと考えているが、難しいと考えている。年によって事情に違いがあり、それに合わせて単年度の特例で対応するほうが良いと思う。

衣笠:同じような事情が繰り返し起こる場合は規約にしてもいいと思うが、現状では事情が毎回異なるため、結局例外になってしまうのではないかと。また、規約にしたい理由は同じ議論を繰り返したくないということと思うが、それに関してはガイドラインを設けて参照できるかたちにすればいいのではないかと考える。

また、結果が出たあとに議論を行うということが問題になることのほうが多いため、その点を解消すればいいと考える。

浴本:結果が出たあとに議論を行うことのないように規約にしたいと思っていた。

浴本:一度意見を全体に聞いて方針を決めたい。

規約改正:0

では、単年度の特例とガイドラインを定める方針で考えていきたい。

次に、資料に上げた8つの案からどのように決めていくかを考えたい。

現時点で考える枠配分方法

今年度のインカレの結果を来年度に用いる系

1,従来通り、今年度のインカレの結果を来年度に用いる(出場予定の選手が大学の規制によりどれだけ出場できなくても、その結果を来年度の枠配分に用いる)

【メリット】現行の方法なので、学生の納得感は得やすい

【デメリット】ICM2022の東北大のようなケースを救済できない

2,当初選手権クラスに出場予定だった選手のうち、全体で○割かつ各地区で○割の選手が出場できれば、今年度のインカレの結果を来年度に用いる

【メリット】現行に似た方法なので、学生の納得感は得やすい+コロナによる不出場にも対応している

【デメリット】中九四や北信越のように枠配分が少ない地区の大学が出場できなくなった場合、来年度の枠配分に用いることができなくなる(代替方法は?)

3,従来通り枠配分を行った上で、本人の帰責に寄らない事由(ex,大学の規制)により出場できない学校があった場合、その大学の当初の選手権クラス出場人数×○割を来年の地区学連に付与

(ex,東北大が7人出れない場合、7人×5割=3.5を来年の北東学連に付与)

【メリット】現行に似た方法なので、学生の納得感は得やすい+コロナによる不出場にも対応している

【デメリット】不出場だった人の○割に枠を与える+繰り上がりで出た人が枠を獲得する可能性があるため、特定の学連の枠が増える可能性がある

4,3のケースで繰り上がりの人に枠獲得の権利を与えないパターン

【メリット】現行に似た方法なので、学生の納得感は得やすい+コロナによる不出場にも対応している+不出場により利益を得ることは3ほどはない

【デメリット】繰り上がりで出場する人の枠獲得を目指すというモチベーションがなくなる

今年度のインカレの結果と関係なく来年度のインカレの枠配分を決める系

5,大学ごとに○名まで選手権クラスに出場できる(インカレにリレーがなかった頃は各大学4名まで出場してたらしい)

【メリット】コロナによる不利益を受けない

【デメリット】現行の制度から大きく変わるので、学生の納得感が得づらい+大学ごとの競技力が違うのでそれを一律にするのはおかしい

6,日本ランキング上位者が選手権クラスに出場できる

【メリット】実力者が選手権クラスに参加できる

【デメリット】関東以外のあまりランキング対象大会が行われない地域の人不公平

7,セレで標準タイムを設けてそこをクリアした人は選手権クラスに出場できる(陸上とかと同じ感じ)

【メリット】コロナによる枠配分の不利益を受けない

【デメリット】オリエンテーリングで標準タイムを設けるのがそもそも困難

8,その年の地区学連登録人数に応じて枠配分を行う

【メリット】コロナによる枠配分の不利益を受けない

【デメリット】地区学連登録人数と地区学連の競技力は同義ではない

この案の中から1つを幹事会で選び総会で承認を取るか、すべてを総会に上げるか、一部に幹事会で絞った上で総会に上げるかを考えたい。

浴本としては、幹事会で案を絞った上で総会に上げるのが良いと考えている。

市川:多いから絞るとするのは賛成だが、絞りすぎると選択の余地がなくなる。絞る基準はあるか。

浴本:自分としては3~4案に納めるのが妥当と思う。

市川:少なくとも4案と思う。まず実現が出来ないものを除いたらそれ以外は総会に上げるべきと考える。

鈴木:自分も2人と同様の意見である。枠配分の話題は各校に深く関係するので、加盟校に選択してもらいたいと考える。

1つに絞る:0

全案を出す:0

一部案に絞って出す:9

浴本:では一部の案に絞る方針で行く。

上の8個の案と、他に意見があれば出してもらい、非現実的なものも含まれているので、ここからどの案を総会に出すかを3~5案で決めるところまでを今日の幹事会で行いたい。

1,従来通り、今年度のインカレの結果を来年度に用いる(出場予定の選手が大学の規制によりどれだけ出場できなくても、その結果を来年度の枠配分に用いる)

【メリット】現行の方法なので、学生の納得感は得やすい

【デメリット】ICM2022の東北大のようなケースを救済できない

2,当初選手権クラスに出場予定だった選手のうち、全体で○割かつ各地区で○割の選手が出場できれば、今年度のインカレの結果を来年度に用いる

【メリット】現行に似た方法なので、学生の納得感は得やすい+コロナによる不出場にも対応している

【デメリット】中九四や北信越のように枠配分が少ない地区の大学が出場できなくなった場合、来年度の枠配分に用いることができなくなる(代替方法は?)

3,従来通り枠配分を行った上で、本人の帰責に寄らない事由(ex,大学の規制)により出場できない学校があった場合、その大学の当初の選手権クラス出場人数×○割を来年度の地区学連に付与

(ex,東北大が7人出れない場合、7人×5割=3.5を来年の北東学連に付与)

【メリット】現行に似た方法なので、学生の納得感は得やすい+コロナによる不出場にも対応している

【デメリット】不出場だった人の〇割に枠を与える+繰り上がりで出た人が枠を獲得する可能性があるので、特定の学連の枠が増える可能性がある

4,3のケースで繰り上がりの人に枠獲得の権利を与えないパターン

【メリット】現行に似た方法なので、学生の納得感は得やすい+コロナによる不出場にも対応している+不出場により利益を得ることは3ほどはない

【デメリット】繰り上がりで出場する人の枠獲得を目指すというモチベーションがなくなる

5,大学ごとに〇名まで選手権クラスに出場できる(インカレにリレーがなかった頃は各大学4名まで出場してたらしい)

【メリット】コロナによる不利益を受けない

【デメリット】現行の制度から大きく変わるので、学生の納得感が得づらい+大学ごとの競技力が違うのでそれを一律にするのはおかしい

6,日本ランキング上位者が選手権クラスに出場できる

【メリット】実力者が選手権クラスに参加できる

【デメリット】関東以外のあまりランキング対象大会が行われない地域の人不公平

7,セレで標準タイムを設けてそこをクリアした人は選手権クラスに出場できる(陸上とかと同じ感じ)

【メリット】コロナによる枠配分の不利益を受けない

【デメリット】オリエンテーリングで標準タイムを設けるのがそもそも困難

8,その年の地区学連登録人数に応じて枠配分を行う

【メリット】コロナによる枠配分の不利益を受けない

【デメリット】地区学連登録人数と地区学連の競技力は同義ではない

鈴木:7と8案は難しいと考える。標準タイムは毎回のレースが同じ条件であるという前提で定められていると思うが、オリエンテーリングではそのような状況になることはないと考えたため、難しいと考えた。トップ比率を使えば不可能ではないと思うが、選手権クラスの人数が爆発的に増える可能性もあるため難しいと感じた。

8案は悪くないとは思いますが、関東に有利すぎるように感じる。

浴本:個人的には7、8、5案が難しいように感じる。5案は、強い大学にとっては少なく感じると思うので、大学ごとのバランスを取るのが難しいと思う。

衣笠:そもそも現在まで利用している方式を変える理由があるのか。

浴本:その意見も最もだと思うが、選手権クラスに多く選手を輩出している1校が出場できなくなったときに、現行の規約だと特定の学連に著しい不利益が発生する状態なので、その不公平さをなくすために規約を変えたいと考えている。

衣笠:今回の東北大のケースは特殊な事情なので、それに合わせてベースである規約を改正するべきではないと考える。

2022年度第3回日本学連臨時幹事会議事録

浴本: 全大学が参加できればいいと思うが、そうでなかった場合も考慮できる形にしたいということである。ベースを変えることはあまり考えていない。

衣笠: であれば、その方針を固めるべきと思う。

浴本: たしかに5~8案はベースから変更するものになっている。この案に賛成する人がいないのであれば、今までの方式をベースにして考える方針にしたい。

市川: 確認したいが、特殊な事情に合わせてベースを変えるべきでないということだったが、枠配分の際には現行の方式を用いた上で、特殊な事情が発生した場合に今回決める方法で枠配分を決めるということの問題ないか。

浴本: インカレが成立して終わった後で議論を行うことは良くないと考えていて、インカレをする前に、特殊な事情が発生した、今は特定の大学が出られない場合のことを考えて事前に枠配分方法を定めておいたほうが良いということである。

市川: つまり、なにも無ければ現行規約の枠配分方法通り行うということか。

浴本: そのとおりである。やむを得ない事情で参加できないような大学が無い場合、つまり何事もなく従来通りインカレが行われた場合は従来規約を用いる。
このことを前提としたうえで総会に出す案を絞っていく。

浴本: 5,7,8に関してはデメリットが多く、総会に上げる必要はないと考える。

浴本: 6については、地区によって差が生まれてしまうことや、実力を急激に付けてきた選手出場させることが出来ないというデメリットがあるため、あまり適切でないように感じている。

浴本: では6も総会にあげない方針で行く。
案が4つになったので、これを総会に上げる方針でよいか。

浴本: ではその方針で行きたいと思う。

市川: 2と3は割合が決まっていないが、総会に上げる前に決めたほうが良いのではないかと考える。
投票の際には目安だけでも提示したほうが加盟校も分かりやすいのではないか。
決まったあとで再度確定させる形。

浴本: では幹事で目安を定めた上で、その案になった場合具体的な議論を行うという方針で行きたいと思うが、問題ないか。

ではこの方針で行く。投票は後日行う。

それ以外でこの4案に意見がある方はいるか。

鷺津: 1, 3, 4案は例年通りいかなかった場合どうするかという形式だと思うが、2案は何割に満たないという基準によるのか。

イレギュラーがあった場合に使うのが3か4のような方法でいいのではと思う。その方法を使う条件を2か3にするという形にするのはどうか。

浴本:2が使えなかった場合3にするといったことか。

鷺津:その認識でいいと思う。

浴本:4つの案を上げるが、基準を満たさなかった場合3か4にする、という形で少し案が増えるが、2→3という案と2→4の案に分かれることになると思う。

では、2案に但し書きとして、条件を満たさなかった場合3か4案になるという旨を記載する。

これ以上意見が出ないようなので、ここからの流れを確認してこの議事を終える。

まず〇割の目安について確認するGoogleフォームを流すので、幹事会メンバーは回答をお願いする。それが決まった上で自分が総会に流す文書を作成する。文書を確認してもらい不備がないことを確認した上で総会にかけ、投票を行い最も多くの表を得た案に決定する。来週中(8/27-28)には文書の作成を行う。

3.ユニバーの宣伝

浴本:8/17-21までユニバーが開催され、日学幹事会からは永山と松本が出場します。8/19と8/21はzoomでユニバーを見る回を事業部主導で行います。可能であれば選手情報を投稿してほしいです。

これで今回の幹事会を終了する。

以上